特別活動における実践的な指導力の向上　－　生徒総会の企画・運営を通して　－

日立市立滑川中学校　教諭　沼野健一郎

1　主題設定の理由

経済産業省の産業構造審議会「教育イノベーション小委員会　これまでの論点整理」によると、産業界が大学卒業生に期待する資質・能力と現実の 18 歳には主体性やリーダーシップの面で大きな乖離があることがわかる。論点整理にある「未来の教室」プロジェクトビジョン 2.0 の最上位目標からも、学生の各段階から、異質な他者との関わりを通じて、社会の当事者としての意識や実践的な解決能力を身に付け、自律できるようになることが必要だとわかる。

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別活動編では、特別活動の目標は産業界が期待する資質・能力や「未来の教室」プロジェクトビジョン 2.0 の目標との一致や関連性が多くみられ、中学校の特別活動を通じて、目標を達成していくことが必要である。

生徒の実態を調査したところ、全国の 18 歳の回答に比べると高い割合だが、主体的に課題に取り組もうとする意識が低いという傾向は一致している。生徒が主体者として学校や学年の課題に関わることができるよう、話合いによる合意形成のプロセスを丁寧に学んでいくことが必要である。

2　研究の内容

本研究では、めざす生徒の実現のために、次の視点で活動を実施した。

・特別活動全般に関するリテラシーを向上し、知識・技能を身に付ける。
・学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの活動において、問題の発見、課題の設定、話合い活動を通じた合意形成や意思決定を図る学習プロセスの実践。
・今後の実践につながる継続的な指導と、身に付けた資質・能力を生かすことができる場の設定。

具体的な施策は以下のとおりである。

ア　教職員・生徒の特別活動のリテラシーの向上
イ　当日までのスケジュール表の共有と「職員・役員必携」の作成
ウ　中央委員会の組織
エ　学級の話合い活動の充実
オ　生徒総会本番での議論活性化のための工夫
カ　生徒の負担の軽減
キ　生徒総会実施後の活動

3　研究のまとめ

中学校において特別活動に力を入れ、生徒総会に向けて仕組みを整え、特別活動へのリテラシーを高める取り組みを行い、話合いの進め方やよりよい合意形成と意思決定の仕方を身に付ける活動を繰り返し行った。また、集団や社会の形成者として、多様な他者と協働し、よりよい生活をつくろうとする態度やその為に必要な資質・能力を身に付ける研究を行った。成果を以下の視点から分析した。

（１）生徒総会の事前の活動から
ア　生徒が決定した議題から
イ　学級と中央委員会での話合い活動の観察から
（２）生徒総会当日・事後の活動から
ア　生徒の議論の様子の観察から
イ　生徒のアンケートから
（ア）生徒総会後のアンケートから
（イ）「人権どうするレク」後のアンケートから

分析から、集団や社会の形成者として、多様な他者と協働し、よりよい生活をつくろうとする態度やその為に必要な資質・能力を身に付けることができたことがわかった。

以上のことから、研究のねらいは達成できた。

生徒総会の様子

4　今後の課題

中央委員会の活動は昼休みを中心に実施したため、生徒の放課後の活動への負担はなかったものの、新年度が始まってすぐのスタートであるため、日程的な厳しさがあった。在校生は前年度から計画を進めるなど効率的で効果的な計画をさらに工夫したい。